

## 肉豚に対するPC-2102の給与試験

野田邦嗣・中林大治郎・加藤正満・荒岳 義  
(大分県農業技術センター)

NODA, K., NAKABAYASHI, D., KATO, M., and ARATAKE, T.  
Effect of PC-2102 on growth, feed utilization and anti-stress  
in crossbred (Landrace ♂ × Saddleback ♀) Pigs.

豚、特に子豚においては飼料および環境の急変、その他飼育条件の変化などによって、ストレスを起し、発育の停滞、飼料効率の低下、下痢、その他疾病の誘因となるなどの影響をあたえ、肉豚経営への直接、間接の被害がみられる。そこでストレスの防止をはかるため、2種類の抗生物質と病気の予防治療時に要求される8種類のビタミンを配合した複合抗生物質水溶散剤「PC-2102」を用いて、肉豚における各種のストレス時に投与し、発育、飼料効率抗ストレス効果等について調査した。

### I. 試験方法

試験期間は発育試験を昭和44年11月8日より昭和45年3月9日まで実施した。

供試豚は生後45日齢の一代雑種(サドルバック種♀×ランドレース種♂)を用い、第1表の通り試験区分した。

第1表 試験区分

区	投与量 (1日1頭当り)	頭数
1区	無投与	3頭
2区	0.5g	4頭
3区	1.0g	4頭
4区	1.5g	3頭

供試品の内容及び投与期間は第2、3表のとおりである。投与方法は、朝、供試品を飼料にまぜ練餌にして給与し完全に採食させた後は残りの所定の飼料を自由摂取させた。飼料の切り換えは3日間で行ない、その他飼養管理は慣行法に従い、供試豚は1区1豚房に群飼し、飼料は産肉検定のL基準量を1日1回の制限給餌とした。

第2表 供試品の内容

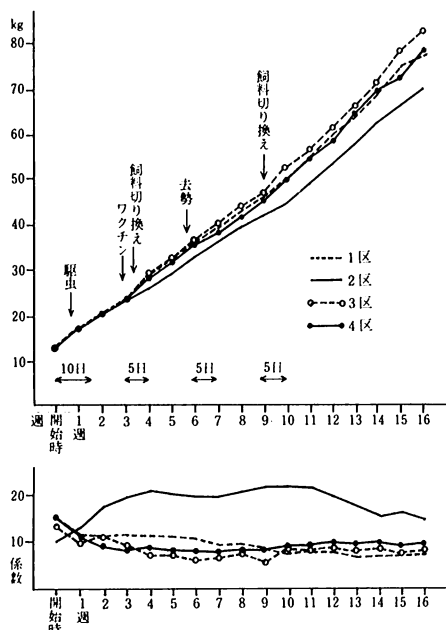
塩酸オキシテトラサイクリン	55.0mg (力価)
硫酸フラジオマイシン	38.5mg (力価)
ビタミンA	1,100I.U.
ビタミンD <sub>3</sub>	200I.U.
ビタミンK <sub>1</sub>	0.44mg
ビタミンE	0.33I.U.
ビタミンB <sub>2</sub>	1.92mg
ビタミンB <sub>12</sub>	4.41mcg
ニコチン酸アミド	8.81mg
パントテン酸	3.30mg

※本剤1g中の含有量

第3表 供試品の投与期間

投与次	投与量決定体重	投与期間	備考
第1次	開始時及び1週時	開始時～10日	試験開始、駆虫剤投与(5日)
第2次	2週時	開始後19～23日	豚コレラ注射(19日)飼料切り換え(21日)
第3次	5週時	開始後40～44日	去勢(40日)
第4次	8週時	開始後61～65日	飼料切り換え(63日)

### II. 試験結果



第4表 増体量、飼料摂取量及び要求率

区	増体量(kg)			飼料摂取量(kg)			飼料要求率(%)					
	人工乳期	肥育前期	肥育後期	人工乳期	肥育前期	肥育後期	人工乳期	肥育前期	肥育後期			
1区	9.6	18.6	28.5	56.7	21.7	67.5	119.9	209.1	2.26	3.63	4.20	3.69
2区	10.2	21.7	32.0	63.9	20.5	71.4	128.8	220.7	2.01	3.29	4.03	3.45
3区	10.6	22.5	35.3	68.4	20.3	71.9	131.6	223.8	1.92	3.20	3.73	3.27
4区	11.7	20.5	32.8	65.0	21.5	72.1	129.1	222.7	1.84	3.52	3.94	3.43

試験成績は図1、第4表のとおりであるが、これを要約すると人工乳期(生後45～66日)においては4区、3区、2区、1区の順に良い成績を示し、肥育前期(生後67～108日)では3区、2区、4区、1区の順、肥育後期(生後109～157日)では3区、4区、2区、1区の順に良かった。全期間を通しては3区が良かった。また、PC-2102投与区は無投与区に比較し個体間のバラツキが少なかった。